

2023年度 健育会グループ医師研修会を 開催しました

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



2024年3月2日(土)、ホテルニューオータニの芙蓉西の間にて「2023年度 健育会グループ 医師研修会」を開催しました。健育会グループの全国の病院から集まった医師に向け、私からの講話とお招きした2名の先生方による特別講演を行いました。



まずは医師の皆さんに、70周年記念映像を鑑賞し、その後、私から医師に向けた講話を行いました。



健育会グループの使命は「光り輝く民間病院グループ」を目指すことであり、国の財政状況が変化して補助金が減っても、確固たる経営基盤で日本の医療を支えていくことを目指してきました。そして昨年70周年を迎えて、もう1つ「愛情を持って親身な対応をする」というミッションを加えました。

それは既にお話ししてきたように、ダウン症候群の子供を持った親子と出会ったことと、同じ夜に、たまたまテレビで自閉症の子供を持ったイギリスのアーティストを見たことで、愛情は本当に人間の治癒力を伸ばすと実感したからです。

医学部では、科学者である医師は患者さんを物体として見なければ病気を見逃すと教えられます。その意味で科学者として診断、治療に向き合うことは必要ですが、患者さんの治癒力を増やすためには、医師の皆さんにも「愛情を持って親身な対応をする」ことをお願いしたいと思います。

健育会の使命である確固たる経営基盤についてお話ししましたが、今後は経営スタイルが変わっていきます。少子高齢化によって労働力が減少するためです。少ない労働力でパフォーマンスを出すためには、医療DXの活用が欠かせません。これは全ての業界に言えることですが、特に医療介護業界は顕著に変わっていくことでしょう。

現在、健育会グループは日本一のAIの研究室と契約を結び、医療介護におけるAIソリューションの開発に着手しました。これにより少ない人数で高いパフォーマンスが出せるようになり、働く人たちも楽になることが狙いです。



麻生飯塚病院では、非常にDXが進んでおり、看護師は1000ベッドある病床全てをiPad1つで管理し、ナースステーションは機能する必要がないそうです。健育会グループでも、そうした医療DXの開発が必要不可欠であり、従来までの「人がいないと、いいことができない」という考え方から、「いかに効率的に高いポテンシャルを出すか」を目指してきたいと考えています。

その中で医師の皆さんにお願いしたいのが、粗利経営です。医師にとっての粗利経営とは、余分な薬は使わず、必要な薬を必要なだけ使うことです。患者さんの状況と今までのデータから、自分できちんと診断を下し、必要な検査のみ検査をして、必要な薬を必要なだけ出す。これが名医です。ぜひ皆さんも名医になってください。それが効率的な経営にも結びつきます。

また、高齢者の患者さんが急変した時に無駄な治療をしないことも大切です。とはいえ、これは医師だけで決められることではありません。ですから「この病院で亡くなりたい」と思ってもらい、患者さんやその家族から「先生にお任せする」と言われるような信頼されるドクターになってください。「先生にお任せする」というのは古い言葉かもしれませんが、最も信頼を表す言葉でもあると思います。



最後になりますが、健育会グループは「光り輝く民間病院」を実現するため、一流の人間、一流の薬、一流の医療機器が揃う病院を目指します。皆さんも一緒になってour teamとして「光り輝く民間病院」を目指して行ってほしいと思います。

今回の医師研修会では、西伊豆健育会病院の仲田和正院長に座長を務めていただきました。



はじめの特別講演は、奏診療所の今永光彦先生による「老衰の診断とケア」についてです。



今永先生によると、90歳以上の超高齢者の死亡者数がとても増えている現在、老衰で亡くなる人数も増えつつあり、今後医療介護の現場において老衰の診断やケアをどう行っていくかが重要な課題となっている、と問題提起されました。その上で、老衰は定義が難しく、適切な診断・治療が行われぬまま診断が下されているケースや、過剰な検査や治療で患者のQOLが低下しているケースがあるとし、診断や治療の基準や考え方、注意点などについてお話しいただきました。まとめは以下の通りです。

- ・老衰の診断にあたっては、緩徐な状態の変化であるか、容易に改善できる可逆的な状態の有無の確認を行う。
- ・エンドオブライフ期においては、「食べる」ということをどのように考え支えていくかが重要。
- ・老衰における死亡診断書の記載の際は「修正ルール」を意識する。

続いて、日本航空の荻政二先生より「航空業界の安全の取り組み」についての講演がありました。



講演では、航空業界の取り組みとパイロットのトレーニングにおいて重要視される、「エラーを減らす取り組み」、「レジリエンスを高めることの重要性」、「能力を伸ばすためのトレーニング」という3つのテーマについてお話しいただきました。

エラーを減らす取り組みについては、チーム理論や飛行機事故におけるバイアス例、ヒューマンファクターズの原理を実例を交えて紹介されました。また、スイスチーズモデルをすり抜ける「想定外の危険」に対処するためには、個人の能力を上げることが重要であり、そのために必要なレジリエンス向上のためのパイロットトレーニングについても解説されました。医療業界にも役立つ、安全の取り組みを新たな視点からわかりやすくご指導いただきました。



研修会の後は、芙蓉中の間へ移動して懇親会を開催しました。はじめに去年12月に入職した大西証史顧問から乾杯の挨拶があり、その後は中華、洋食、鮨などのビュッフェとともに、歓談の時間を楽しみました。



また本年度から健育会グループに入職した5名の先生方から、自己紹介を兼ねた挨拶をおこないました。



いわき湯本病院 飯山達雄医師



湘南慶育病院 松原隆医師



竹川病院 澤田孝繁医師



ねりま健育会病院 佐藤絵梨医師



ねりま健育会病院 川村愛医師

一堂に会した医師の皆さんとともに、有意義な時間を過ごせたことを大変嬉しく思います。日々変化する社会環境の中で、健育会グループは使命の達成に向け、より一層の努力を重ねていきます。医師の皆さんも、our teamの精神で共に「光り輝く民間病院」を目指していきましょう。